

## B) 卵巣嚢腫核出術

### 卵巣チョコレートとう腫と体外受精

体外受精(以下 ART)を考えているケースにおいて、卵巣チョコレートとう腫の取り扱いに関して検討してみたいと思います。

卵巣チョコレートとう腫とは子宮内膜症嚢胞の事です。子宮内膜症患者の2~5割に見られます。とう腫の内腔には毎月生理の度に卵巣内に出血が貯まり、古くなり固まって、あたかもチョコレートのように見えるためにチョコレートとう腫と名付けられました。

ARTを希望される方でチョコレートとう腫を合併しているケースは少なくありません。卵巣チョコレートとう腫がある場合のARTは、色々な意味で治療に苦慮する事が多々あります。

- ①チョコレートとう腫により卵胞の発育が悪いケースもあります。
- ②卵巣が癒着しており採卵しにくいケースもあります。
- ③採卵の際に穿刺吸引した場合:採卵の際にチョコレートとう腫も同時に穿刺して内容吸引するという事も技術的には可能ですが極力避けるべきだと思われます。とう腫内容が腹腔内に漏れて腹膜炎を起こす可能性があるからです。
- ④「卵子の質が低下する可能性がある」という報告があります。

チョコレートとう腫の取り扱いにはおおよそ以下の2通りの選択肢があります。

- ①チョコレートとう腫をそのままにしてARTを行う。
- ②腹腔鏡手術でチョコレートとう腫を取り除き、その後ARTを行う。

このどちらの治療が正解かは議論されている所です。手術をするかしないかに関しては様々な論文が出ており今後の更なる検討が求められています。順にそのメリット、デメリットを考えてみたいと思います。

#### チョコレートとう腫を残した場合のメリットとしては

- ①手術をしなくてもARTで妊娠できるかもしれない。
- ②卵巣にメスを入れないので卵巣予備能が下がりにくい。

#### チョコレートとう腫を残した場合のデメリットとしては

- ①今後癌化する恐れがある。(0.5~1%の確率)
- ②とう腫の破裂の恐れがある。(3%程度)
- ③基本的には自然にはなくならず、今後さらに大きくなる可能性がある。

### チョコレートのお腫を取り除いた場合のメリットとしては

- ①癌化の恐れを取り除ける。
- ②破裂の恐れを取り除ける。
- ③自然妊娠しやすくなる。

### チョコレートのお腫を取り除いた場合のデメリットとしては

- ①卵巣予備能が低下する恐れがある。
- ②手術をすることで妊娠への時間が遅くなる。
- ③お腹に小さい傷が残る。

これらのメリット、デメリットをふまえた上で、お腫のサイズ、年齢も考慮し、今後どういった選択肢を選ぶかを決める事になります。

個人的な意見として一番好ましいと思う治療は、まず腹腔鏡でチョコレートのお腫を取り除き、その後3～6カ月程度タイミング療法や AIH を行い、妊娠しない場合は ART を行う事だと思っています。

その理由として、

- ①チョコレートのお腫は(確率が低いとしても)癌化や破裂の恐れがあり、妊娠前に取り除く事が望ましい。
- ②手術の際には癒着剥離等も行うため、手術後自然妊娠する可能性が増える。
- ③子宮内膜症の存在が卵子の質を低下させ体外受精の成績に悪影響を及ぼす可能性があるとの報告がある。

そのため、「まずは腹腔鏡でチョコレートのお腫を取り、その後自然妊娠しない場合は体外受精へとステップアップする」、この一連の流れでの治療が好ましいと思われます。

## 卵巣嚢腫手術と AMH

卵巣嚢腫を手術しなければいけない時に卵巣機能 (AMH) を下げないで卵巣嚢腫をとる、これが出来る事がポイントです。今後の妊娠を考えると卵巣嚢腫は取るだけではなく卵巣機能を温存したままいかにお腫を取り除くかが大切です。

ただこれはあくまで理想論であり、手術により卵巣予備能が下がるのであれば手術をしないで体外受精を行うという選択肢も検討しなければいけません。要は手術の技量にかなり多く左右される事になります。手術により卵巣予備能が下がらない確証があれば、まず手術を行った方が良いと思います。

腹腔鏡手術は施設間格差、医師間格差が開腹術と比較し大きい事が指摘されています。

また論文で様々な比較検討が行われていますが、施設や術者の技量までは加味されておらず、どこまで正確に検討されているか一概には言えないと思います。

以前は卵巣予備能を図る検査の一つとして FSH がありましたが、FSH は月経周期によりばらつきが出るため最適ではありません。

近年 AMH が簡便に測定できるようになり、この AMH は月経周期によりばらつきが出る事はないため、いつでも正確に卵巣予備能を図れる事になりました。

つまり術前術後においてこの AMH の変化が出ない事が可能な施設であれば、卵巣嚢腫を先に取り除き、その後 ART に進むという流れが理想通りで最も好ましいと言えます。